



長泥には「希望」があります。

福島県飯館村長泥地区で行われている

除染した土の活用に向けた国の実証事業に

さまざまな意見があることはわかっています。

ただ私は、これは夢のある

事業だと考えています。

長泥にまだ戻れない人が希望を持てるような

だからどうしても国には

成功させてもらわなければならぬんです。

まず一つ成功させて、

また一つ成功させる。



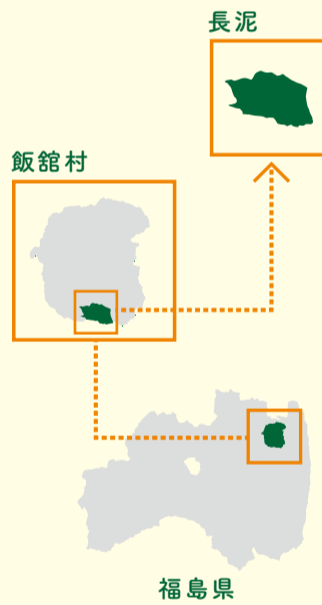
飯館村 長泥行政区
区長 鳴原良友

手に持っているものは
農地で栽培している
トルコギキョウです。

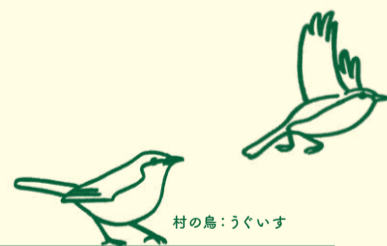
「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯館の方言です。

そうやって再生が実感できるような
道筋を作るために、
多くの人が汗をかいてくれています。
私もできる限り
実証事業の現地を訪れて、
土を耕し、草を取り、
植物の生育を見守りながら、
世の中の人々と共に、
長泥の再生を見届けたいと願っています。



2020年1月長泥



村の鳥：うぐいす

実証事業における
試験栽培を通して、
農作物中に含まれる
放射能濃度を
測定し安全性を
確認しています。

2019年10月に得られた
データでは、除去土壌を用いて
栽培したジャイアントミスカン
サス中の放射能濃度は5Bq
/kgと、食品の放射能濃度
基準の100Bq/kgと比べ
ても大きく下回っていました。

これからも飯館村の実証事
業を通して環境再生に向け
た様々な試験を行い、安全性
の確認を続けてまいります。



環境省は飯館村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、
将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いいたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。